



アホウドリ通信

No. 2

2024年7月8日



発行：
(公財)山階鳥類研究所

【2023/24年 アホウドリ繁殖状況のご報告】アホウドリの繁殖シーズンは冬。伊豆諸島・鳥島や小笠原諸島・^{むこしま} 鷺島に戻ってきたアホウドリは、11月に産卵し、12～1月にヒナが孵化します。その後、子育て期間を経て、5月ごろに巣立ちます（写真1）。巣立ったヒナたちは、今ごろ夏の行動範囲であるアリューシャン列島周辺に向かって移動していることでしょう。今シーズンのアホウドリは、鳥島、鷺島ともに繁殖が順調で、鳥島では1,173羽、鷺島では3羽のヒナが巣立ちました。さらに鳥島での最新の推定個体数は8,600羽（図1）と、順調に増加している様子が確認できました。今回のアホウドリ通信では、各島での調査と繁殖状況についてお届けします。



写真1 巣立ち直前のヒナ（撮影：今野怜、2011年5月撮影）

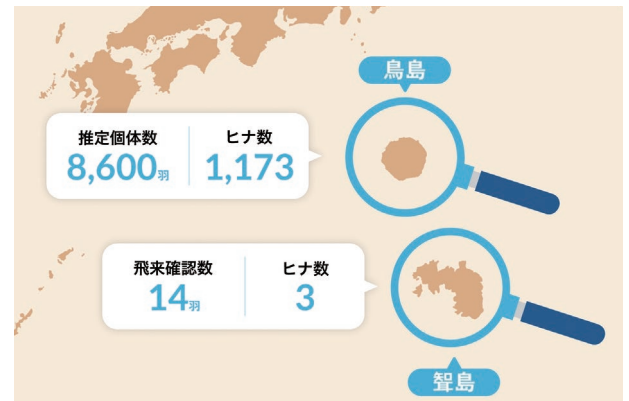


図1 鳥島、鷺島におけるアホウドリの個体数、ヒナ数

■ 鷺島で初めて1シーズンで3羽が誕生！

鷺島では、アホウドリ新繁殖地形成事業として、鳥島で生まれたヒナを鷺島に移送して人工飼育し巣立たせる（2008年～2012年）とともに、音声とデコイ（実物大模型）による誘引（2007～2022年）を実施し、アホウドリの繁殖地を鷺島に復元する取り組みを行ってきました。初めて鷺島でヒナが誕生したのはプロジェクト開始から8年目の2016年。その後は、2020年までは毎年1羽ずつ、2021年には0羽、2022、2023年には2羽のヒナが巣立っており、なかなか生まれるヒナの数が増えない状況が続いていました。そして、プロジェクトが開始されてから16年目となる今シーズン、初めて、1シーズンで3羽のヒナが順調に育っていることが確認できました。

今シーズンの調査は、以下のとおり、3回実施しました。

2023年 11月 23日～29日 抱卵期調査

2024年 1月 20日～27日 ^{いくすう} 育雛期前半調査（写真2）

2024年 3月 4日～11日 育雛期中盤調査、ヒナへの足環装着

抱卵期調査では、3つがい卵を温めている様子が確認され、期待が高まりました。しかし、昨シーズンも3つがいの産卵が確認されましたが、そのうち1つがいは未^ふ孵化だったので、まだ安心はできませんでした。1月の調査で、3巣にそれぞれヒナがおり、親鳥が^{きゅうじ} 給餌している様子も観察され、調査員一同、一安心。その後、3月の調査でも順調にヒナが育っていることを確認し、3羽ともに個体識別用の足環を装着しました（写真3；赤Y84～86）。

詳しくは、プレスリリースもご覧ください。

[プレスリリース（2024年6月11日）：小笠原諸島鷺島のアホウドリ、初めて1シーズンで3羽が誕生](#)



写真2 鷺島での調査風景（2024年1月）。約300m離れた地点からアホウドリの飛来個体数、ヒナの成長具合などを確認



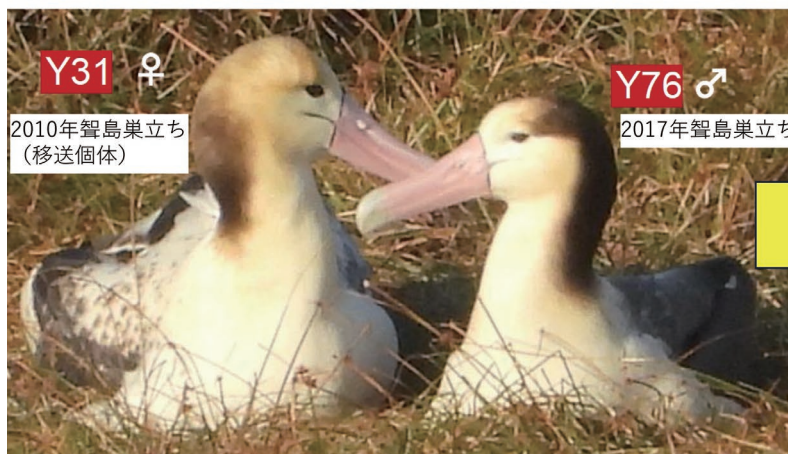


写真3 今シーズンの智島でのつがい（左）とそのヒナ（右）。親鳥6羽のうち5羽には赤の色足環が装着されており、それぞれ個体識別され、年齢・性別・出生地がわかっている



智島調査 プロジェクトリーダーからのひとこと

おかげさまで、2023/24年シーズンも無事に調査ができました。今シーズンは、近年智島で毎年確認されていた3ペアがそれぞれ無事にヒナをかえして、育ててくれました。鳥島の新繁殖地のような急激な数の増加は、智島では見込めないかもしれません。それでも今年も若鳥が複数羽確認されるなど、少しずつ着実に智島が新たな繁殖地になりつつある様子が見られました。これからの5年ほどは、新繁殖地形成に向けてとくに重要な時期です。（油田照秋）



■ 鳥島での調査概要

鳥島での調査は、2023年11月と2024年2～3月にかけて、2回実施されました。11月の調査ではアホウドリのつがい数（卵の数）を、2～3月の調査では主にどれだけの卵が孵化し育っているのかを調べ、すべてのヒナに個体識別用の足環を装着しました。その結果、11月に確認された1,574個の卵から、1,173羽のヒナが順調に育っていることが確認されました（孵化率：74.5%）。

調査の様子はこちら↓

2023年11月 7日～12月 2日 鳥島第85次調査隊：[アホウドリ通信2024年1号](#)

2024年 2月13日～ 3月13日 鳥島第86次調査隊：[X（旧twitter）で発信](#)

アホウドリ通信

X



2回の調査を通して、鳥島内にある3つのコロニー（初寝崎、燕崎、子持山）の状況も確認を行いました。燕崎では、11月の調査時に堆積していた土砂が流入し、コロニーの一部を侵食しているのが確認されました。ここでは過去に大規模な土砂流入によるヒナの死亡事例が発生しましたが、今回はアホウドリが島に戻る前のできごとだったようで、アホウドリへの直接的な被害は見られませんでした。しかし、2月には新たな土砂が堆積しており、土砂流入の危険性は依然として高い状況にあります。今後も3つのコロニーでの継続したモニタリングに加え、燕崎の営巣地整備を実施していく必要があります（写真4～写真6）。

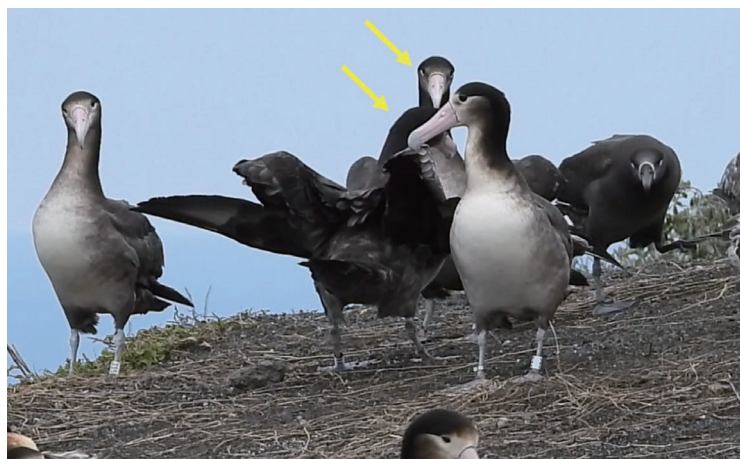


写真4 初寝崎コロニーで求愛ダンスをおどる若いアホウドリたち（矢印の2羽）

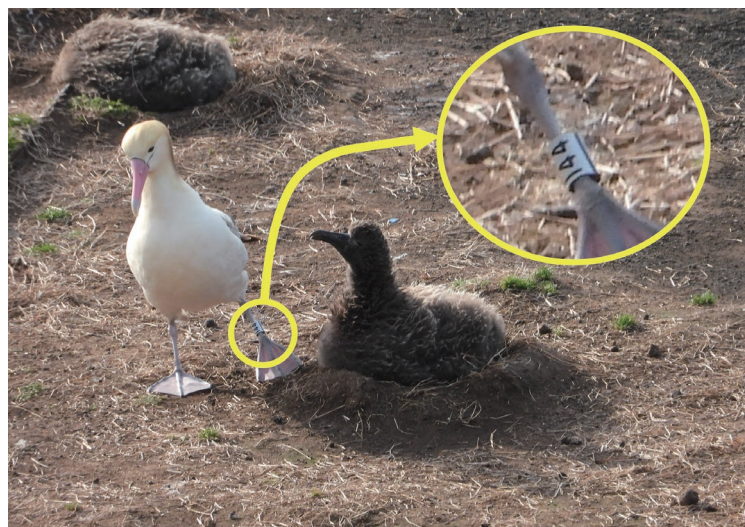


写真5 親鳥とヒナ。親鳥は「白144番」の色足環が装着されており、2008年巣立ちの個体であることがわかる



写真6 調査中には豪華客船が通過することも！

鳥島 隊長からのひとこと

皆様のご支援により2023/24年繁殖期の鳥島調査も無事に終わることができました。まことにありがとうございます。今回も産卵数とヒナ数ともに順調に増加し、ヒナ数は2年連続1,000羽超となりました。ひとまずほっとしています。しかし、心配の種だった燕崎では堆積していた土砂がついに流出しました。幸いアホウドリに直接的な被害はなく、繁殖地への影響も最小限であったと考えられます。卵やヒナの時期でなくてよかったと思うとともに継続したモニタリングの重要性を再認識しました。（富田直樹）

アホウドリ寄附サポーターへのご参加、誠にありがとうございます。2024年1月から6月までに、413名の方々からご寄附をいただきました。引き続き、ご支援のほど、何卒よろしくお願いします。